

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503718		
法人名	社会福祉法人 パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 伍番館 第1ユニット		
所在地	札幌市白石区菊水上町1条2丁目179番5		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和2年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0170503718-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には、毎日、安心して暮らして頂けるよう、日々の体調管理に留意し、またその方の能力を活かし発揮出来る様支援しております。入居者様とのより良い人間関係作りを行う為には、顔なじみの職員が関わりを持つことが重要で、職員が入れ替わる状況ですと入居者様も不安になります。そのために、職員が働きやすい環境を作ることにより、長く働いてくれる職員が増え、また、気持ちに余裕を持って入居者様に接することが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ハートの家伍番館」は、閑静な住宅地に溶け込んで建っている2ユニットの事業所である。既存の建物を改築した2、3階が住まいで、1階はグループホームの事務所と法人本部の事業所になっている。社会福祉法人パートナーは多くのグループホームを運営しており、当事業所は開設して15年を迎えている。地域に根差して住民と共に生きる理念を基に事業所独自のケア理念をユニットごとに作成している。地域とは運営推進会議や避難訓練の協力を得ている。管理者は職員が内外で学ぶ機会を積極的に支え、意欲をもって働く環境を整備している。協力医療機関、医師指導の下で看取りも行っている。介護計画では担当職員がモニタリングを行い全員で評価し、利用者の意向に沿って可能な限り実現している。会話から思いを汲んで外泊中に家族と温泉に出かけたり、スーパー銭湯に職員が同行支援している。季節の外出行事も楽しんでいてが新型コロナウイルス感染防止から事業内でゲーム大会を行ったり、職員と一緒に共用空間の装飾品作り、季節の料理や多彩なおやつ作りなどに利用者が一つでも参加できる場を工夫し楽しめるように支えている。日々職員はケア理念を意識して心と心の会話を大切に、謙虚な気持ちで利用者に接しながら温かで質の高いサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やステーションなど目につく場所に理念を提示し日頃から意識付けをしている。 また、会議の場で理念を確認し常に職員間で共有できるよう取り組んでいる。	地域に根差し、共に喜び合える暮らしを創造するという内容の法人共通理念を要所に掲示している。 今回ユニットで内容を話し合い、それぞれのケア理念を作成している。会議などで唱和や確認をしながら意識してケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方が2ヶ月に1度、地域運営推進会議へ出席して下さっている。その場で避難訓練への参加やご意見を頂戴している。地域の保育園から催し物を披露していただいていたが、現在はコロナウイルスの為、行っていない。	町内会、また事業所の夏祭りには相互に行き来し、保育園児やボランティアの来訪で歌や楽器演奏を楽しんでいる。今年は感染症対策のため人通りの少ない時間帯に散歩し、犬の散歩をしている住民と挨拶を交わすこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議では、入居者様の日々の様子や職員の取り組みなどを通じて認知症への理解をさせていただける場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況やヒヤリハット、事故報告を行い、それに伴う事業所での取り組みをご説明しご意見や助言を頂戴している。	昨年は会議に家族の参加もあり、今年は3回会議を開き、町内会役員と行政担当者の参加を得て感染症、防災などのテーマで意見を交換している。その後は書面会議とし、利用者の状況や取り組み内容を報告書として関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書は、直接介護保険課へ持参しておりますが、コロナウイルスの影響で、直接お会いすることは控え、分からない事や入居者様の様子など電話で相談や報告を行っております。	必要に応じて市の担当者や生活保護担当者と連携し、また行政主催の研修会に職員も参加しケアに活かしている。今年は電話で連絡を取り、行政から送られてくる感染症などの情報は職員も把握している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が2ヶ月に1回、勉強会を年に最低2回開き、職員への理解を深めている。 また、会議で事故報告を各ユニット行い、最適なケアを提供できるよう話し合う場を設けている。	委員会方針のもとに内部研修を行い、特に利用者の言動を抑えるような言葉づかいや対応を確認し、ケアの中で気付きを深めている。また法人研修として資料を活用し学ぶ機会もある。合同会議の中で利用者の状態を確認しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で作成されたコンプライアンスルールの遵守に努めると共に会議で委員会の報告を行い、職員内で周知する事で、日々虐待防止に努めている。また、法人内での研修を行い、参加した職員は全職員へ周知している。		

グループホーム ハートの家 伍番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度を利用されている方がおり、手続きは管理者が行っており職員への学びの場は設けておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書を読み、分かりやすいよう補足説明をし、不明な点がないか確認しながらご理解を得られるよう努めている。解約についても流れを説明しながら必要書類への記入をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時には、入居者様の状況をお伝えし、お話を伺い、頂いたご意見は可能な限り運営に反映させていただいております。	状態を説明し、衛生用品の使用で家族の意見に沿って対応したり、介護計画の意向も聞いている。今後も見直し時には意識して計画の内容を話し合いたいと考えている。写真にメッセージを添えた通信を個別に送り、暮らしの様子も伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の成果にて昇格、昇給試験を設けている。可能な限り正当な評価が受けられるよう、面談や話す場を多く設けている。また、一人一人のやりたいことや労働時間、日数など可能な限り反映させている。昇給	ユニット会議や合同会議で活発に意見を交換している。本部で職員の意向調査もあり、内外で学ぶ機会も充実している。管理者は希望や個人目標に沿って個別に話し合い、役割をもって意欲的に働けるよう環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験、力量、立場に合った内部、外部研修に参加することで職員のスキルアップ向上に努めている。また、それぞれにあった役割を与えることにより個々にあった経験を積んで頂けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修及び既存職員へは、経験、力量、立場にあった内部研修に参加する機会を設けている。2020年はコロナウイルス感染症の影響で外部研修には参加できず、法人内、施設内の勉強会のみとなっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や法人内事業所見学を行い、交流の機会は設けておりましたが、2020年は、コロナウイルス感染症の影響で、交流の場は設けられていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様やご家族様と面談し、生活状況を確認しながらご本人様が望む事、望まない事の把握に努め実現出来る様、取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様には、可能な限り見学して頂き、実際に生活されている方々の様子をご覧になって頂いています。不安や要望をお聞きし、安心してホームでの生活が始められるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様がどのような生活を送りたいかを伺い、必要としている支援やサービスを確認しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割を分担し意欲をもち生きがいを感じていただけるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも、ご報告やご相談をし通院や外出など、ご協力を頂けるところは協力を得ています。行事などにも参加して頂いておりましたが、コロナウイルスの影響もあり今年度の行事参加は、ありません。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取りや、行きたい場所、住んでいた家などドライブを兼ねて訪問できるよう支援している。また、日常での会話からご本人の希望を把握できるよう努めている。	感染症対策から知人とは電話などで交流を継続し、家族来訪の際には、本人と1階でのガラス越しや2階の窓から会えるよう工夫をしている。利用者との会話から以前に住んでいた場所に同行するなど、気がかりなことに可能な限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別のレクリエーションだけではなく、全体で関われる場を多くもっている。また、他者様と馴染みずらい方は職員が架け橋になれるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて後も、必要に応じて連絡やお手紙を通じてご相談を行ったり、不安な事があればいつでもご連絡を頂けるようお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしの背景や現在の希望などを聞く機会を設け、職員全体で話し合う場を設けている。	ほぼ会話が可能で、意向を汲み取る中で得意面を活かし達成感が得られるように対応している。利用者担当職員はセンター方式のアセスメントを3か月ごとに見直し、追記しながら詳細に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけではなく、ご家族様のお話も聞き、これまでの生活から好まれるものなどを把握し、職員間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活から残存機能を見極め、職員間で情報を共有できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のユニット会議にて介護計画を話し合い、可能な限りご本人様からの意見やご家族様、主治医からのお話も含め、モニタリング、検討をし介護計画書に反映している。	利用者担当職員が状況や変化などを具体的に記入したモニタリング表をもとに、会議で評価を行い意見を交わしている。それらを確認して計画作成担当者は本人・家族の意向も入れて介護計画を3か月ごとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録以外にも申し送りなどで細かい情報を共有や、職員間で連絡ノートを使用し、全体で情報を漏れなく把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態、状況が変わるごとにその方に応じたニーズに応えられるよう、ケア方針を検討し実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に散歩やコンビになどで買い物、町内の行事などに参加している。また、ボランティアとの交流を楽しめるように支援しているが、現在、コロナウィルスの為、実施していない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している往診医の他にご本人やご家族様の希望の病院へ受診が可能なよう支援している。定期的な往診や受診以外にもいつもと違う様子が見られた場合、連絡をし連携を図っている。	月2回内科医の訪問診療を受けているが、かかりつけ医を継続している利用者もいる。専門的な他科受診は、ほぼ職員が同行し結果を家族に報告している。受診内容は往診と通院に分けて記録し、個人ファイルに綴り共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回、医療連携訪問看護しへ、生活状況や日々の体調の変化などを報告し緊急時にも連携を取り対応できる様努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、主に主治医紹介の病院にて受け入れて頂いている。入院時にご家族様同行の元、医師からの説明をお聞きし情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様と話し合う場を設け、意思をお聞きし事業所内で出来る事を説明している。また、終末期ケアの勉強会を行い、ご本人様やご家族様の希望に備えるよう努めています。	重度化や看取りの対応方針、医療的処置が生じる場合は対応が難しいことも契約時に説明し同意を得ている。現在看取りを行っているが、その際に個別に同意書を作成している。職員は看取りケアを学び、家族の面会にも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え事業所ではAEDを設置している。毎年、職員は救命講習を受講しているが、今年度はコロナウィルスの為、参加できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練や勉強会を行い、災害時対応できるよう努めている。	年2回のうち、1回は運営推進会議と同日に各災害を想定し訓練を実施している。今後も会議と同日に行い、地域住民への依頼する内容も考えている。地震時に事業所内の対応を話し合っているが、具体的なことは今後に予定している。	地震マニュアルに沿って、利用者ごとに各ケア場面での対応を話し合い、記録にして見直すことも期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	謙虚な気持ちで入居者様と接し対応している。また、排泄ケア時には羞恥心に配慮した声掛けを行い対応している。	普段の言葉遣いなどは、職員同士で指摘できるような職場環境を心がけている。申し送りなどの際には利用者の名前を出さないように話し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の声や願いに沿えるよう、ユニット会議などで情報を共有し実現可能なことはプランをたて実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースに合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんにて好み髪の長さにしていただく、希望者には毛染めを行うなど行っている。また、季節に合った服をご自身で選んでいただけるように職員が衣替えをしている。		

グループホーム ハートの家 伍番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお米研ぎ、食器拭きなど無理のない範囲でお手伝いして頂いている。	食事は季節のものを取り入れる工夫や出前で寿司などを注文することもある。ホットケーキなどを利用者と一緒に作ったり、敷地内の畑で育てたジャガイモを収穫し、チップスにして食べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が摂れない方には、捕食を提供し食後の水分はご本人の嗜好に合った飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で磨けない方や食物残渣がある方には職員が仕上げ磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔やパット汚染量を把握しその方それぞれのタイミングに合うよう、声掛け、誘導を行っている。	屋間は総合記録シートでの排泄等の情報をもとに声かけを行い、車いすの利用者を含め、トイレでの排泄をしている。利用者や家族の希望に応じて、おむつからショーツに変更するなど自立の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が数日ない方には水分を多めに飲用していただいている。 個々に合った排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や気分に合わせて対応している。 また、湯の温度を好みの温度に合わせられるよう配慮している。	看取りの利用者でもシャワー浴をするなど、できる限り入浴ができるように支援をしている。浴室内で一緒に歌うなど、利用者と職員と一緒に楽しむことでコミュニケーションの場としての役割も果たしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を常に把握し必要な場合、日中にも臥床時間を設けている。 夜間、不安を訴えられた時などは、傾聴する時間を設け、安心して夜間を過ごしていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の受診ファイルに処方箋の情報を管理し、その後の様子や変化など情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、得意とされている事を継続して行えるよう支援し、自身に繋げ生きがいや達成感を感じていただけるように支援している。		

グループホーム ハートの家 伍番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響があり外出の頻度は少なくなったが、ドライブや住んでいた家の外観を見に行くなど、現状で可能な支援を行っている。	近所の公園などに散歩へ出かけ、地域の人との会話を楽しんでいる。動物園への外出や春には豊平川桜の杜で花見をし、秋には旭山公園で紅葉を楽しんでいる。利用者の誕生日には、本人の希望で寿司屋やスーパー銭湯、デパ地下などへ外出するなどの支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金を持ち、おやつや生活用品を買いに行く機会を設けていたが、新型コロナウイルスの影響により、現在は実施されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って電話をかけたり、ご家族様からの電話やお手紙はご本人へ取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は適切になるよう、窓開放やクーラー使用など配慮してる。 フロアや玄関などに季節別の装飾をし四季を感じていただけるようにしている。	貼り絵やぬり絵などを利用者と職員が一緒に製作し、食堂や廊下に装飾することで季節を感じられるようになっている。熱帯魚を飼育したり、共有空間にいくつか設置しているソファにぬいぐるみが置いてあり、癒しのある空間となっている。またテーブルには透明なパーティションが設置されていて、感染症対策もしっかりと実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には自席だけではなく、誰でも使用できるソファや椅子を設置し、好きな場所で過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具を置いている。 使用時に危険性の高い椅子など、ご家族様に相談し新しい物を用意していただくようにしている。	居室には備え付けのオイルヒーターがあり、冬でも暖かく過ごすことができる。写真や作品などが飾られテレビや雑誌なども持ち込まれており、自分の時間を過ごすことができる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の居室がわかるように名札を大きく設置したり、トイレの表示を設置し入居者様、ご自身で目的を果たせるよう、創意工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503718		
法人名	社会福祉法人 パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 伍番館 第2ユニット		
所在地	札幌市白石区菊水上町1条2丁目179番5		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和2年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には、毎日、安心して暮らして頂けるよう、日々の体調管理に留意し、またその方の能力を活かし発揮出来る様支援しております。入居者様とのより良い人間関係作りを行う為には、顔なじみの職員が関わりを持つことが重要で、職員が入れ替わる状況ですと入居者様も不安になります。そのために、職員が働きやすい環境を作ることにより、長く働いてくれる職員が増え、また、気持ちに余裕を持って入居者様に接することが出来ています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=0170503718-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階に法人理念を掲示しております。各ユニット毎に独自の理念を作成、掲示し、2階・3階合同会議時には、法人理念。ユニット会議時には、それぞれのユニット理念を共有しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2019年度には、地域のボランティアや保育園児等をお招きしながら、交流の場を持つ事が出来ましたが、2020年は、コロナウイルスの影響で、地域との関りは、運営推進会議のみとなっております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議では、入居者様の日々の様子や職員の取り組みなどを通じて認知症への理解をして頂ける場を設けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況やヒヤリハット、事故報告を行い、それに伴う事業所での取り組みをご説明しご意見や助言を頂いております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書は、直接介護保険課へ持参しておりますが、コロナウイルスの影響で、直接お会いすることは控え、分からない事や入居者様の様子など電話で相談や報告を行っております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が2ヶ月に1回、勉強会を年に最低2回開き、職員への理解を深めている。また、会議で事故報告を各ユニット行い、最良なケアを提供できるよう話し合う場を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で作成されたコンプライアンスルールの遵守に努めると共に会議で委員会の報告を行い、職員内で周知する事で、日々虐待防止に努めている。また、法人内での研修を行い、参加した職員は全職員へ周知している。		

グループホーム ハートの家 伍番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度を利用されている方がおり、手続きは管理者が行っており職員への学びの場は設けておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書を読み、分かりやすいよう補足説明をし、不明な点がないか確認しながらご理解を得られるよう努めている。解約についても流れを説明しながら必要書類への記入をお願いしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時には、入居者様の状況をお伝えし、お話しを伺い、頂いたご意見は可能な限り運営に反映させていただいております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の成果にて昇格、昇給試験を設けている。可能な限り正当な評価が受けられるよう、面談や話す場を多く設けている。また、一人一人のやりたいことや労働時間、日数など可能な限り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験、力量、立場に合った内部、外部研修に参加することで職員のスキルアップ向上に努めている。また、それぞれにあった役割を与えることにより個々にあった経験を積んで頂けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修及び既存職員へは、経験、力量、立場にあった内外研修に参加する機会を設けている。2020年はコロナウイルス感染症の影響で、外部研修には参加できず、法人内・施設内の勉強会のみとなっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や法人内事業所見学を行い、交流の機会は設けておりましたが、2020年は、コロナウイルス感染症の影響で、交流の場は設けられていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様やご家族様と面談し、生活状況を確認しながらご本人様が望む事、望まない事の把握に努め実現出来る様、取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様には、可能な限り見学して頂き、実際に生活されている方々の様子をご覧になって頂いています。不安や要望をお聞きし、安心してホームでの生活が始められるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様がどのような生活を送りたいかを伺い、必要としている支援やサービスを確認しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意とされている事を分担しそれぞれがご自身の役割と自覚される事で、責任感を持って頂けると共に、一緒に生活している仲間と感じて頂けるよう努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも、ご報告やご相談をし通院や外出など、ご協力を頂けるところは協力を得ています。行事などにも参加して頂いておりましたが、コロナウイルスの影響もあり今年度の行事参加は、ありません。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも電話でお話しが出来る環境です。日々の会話の中から行きたいところ等を把握し極力希望を叶えられる様、努めておりましたが、今年度は行なえておりません。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が、互いに居室を訪問し合い、談話されたり、テーブルを囲みレクリエーションや家事・物作りを通して関り支え合う環境作りに努めております。体調不良や不安な表情を抱えている入居者様同士が声を掛け合い互いに支え合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて後も、必要に応じて連絡やお手紙を通じてご相談を行ったり、不安な事があればいつでもご連絡を頂けるようお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活ではありますが、可能な限りご本人様のペースで生活して頂けるよう、起床や食事などには配慮しています。今年度は買い物や外出は行なえない状況ですが、外気浴や散歩に出掛け楽しみを提供しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、細かい情報を頂き、センター方式を活用しご本人様からも会話の中からも生活歴や習慣、趣味等を伺いながら情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況の些細な変化を職員間で情報共有しています。また、日々の生活の中から残存能力を見極めていきます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議において、職員が意見を出し合い課題が無い話し合いご家族様や医療機関の意見を伺いながら介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、いつもと違う言動や行動を具体的に記録し、申し送り時やノートを活用し職員間での情報共有を図り、ケアの実践、介護計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季折々の行事に、ご家族様をお招きしています。また、ご本人様の「〇〇が食べたい」「△△に行きたい」等、ご本人様の希望を叶えられる様取り組んでおります。今年度はご家族様の参加はありません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活において、散歩や買い物、ボランティア、保育園児との交流、また町内会のお祭りに参加し地域の方との交流等を通して楽しめるよう支援しておりますが、今年度は、外部との交流は図れておりません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の意向を聞きながら、かかりつけ医を決めています。定期的な往診、通院以外にいつもと違う様子が見られた時には、連絡し連携を図ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回、医療連携訪問看護へ、生活状況や日々の体調の変化などを報告し緊急時にも連携を取り対応できる様努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医師からの病状説明や今後の治療方針などご家族様にも同席して頂いています。また、入院に備えてかかりつけ医と連携し早い対応が取れるよう努めております。入院中、面会可能であれば、お見舞いし病院関係者と情報交換し連携に努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様と話し合う機会を設け、意向をお聞きしています。事業所内で出来ることの説明の他、担当医を交えて話し合いご希望に添えるよう努めています。ご本人、ご家族様の希望を都度確認とその時のご希望に添えられるよう努めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	札幌市防災協会主催の普通救命講習をほぼ全職員が取得しております。事業所では、AEDを設置し緊急時に備えております。本年は、コロナウイルス感染症発生時の訓練を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会を含め年6回の避難訓練を行っています。その内2回は、消防職員、防災システム職員の立会いの下、火災・水害・地震の訓練を行っております。毎年地域の方には、見学可能である旨のお手紙を配布し協力体制の構築に努めておりますが、本年は、コロナウイルス感染症の為、お手紙のみの対応に留まっております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、コンプライアンスルールを把握と入居者様一人ひとりに尊厳の念を持ち接しております。排泄や入浴時には、羞恥心に配慮し訪問診療時には、可能な限り居室で診療して頂きプライバシーの保護に努めております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いに耳を傾けたり、伝えにくい気持ちを考え、希望に添えるよう努めております。日常を通して入居者様の意見を尊重し自己決定を行えるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせ、フロアや居室にて自由に過ごしていただいております。全体のレクリエーションを行う際に、お声掛けはしますが、ご本人様の気持ちに沿い無理のない様に行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ぶ方には、選んでいただいています。希望する方には、髪染めを行ったりおしゃれができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材や香りで季節を感じて頂きながら、職員と一緒に楽しみながら盛り付けなどを行っております。食前・食後のテーブル拭きや、食器拭き等のお手伝いをお願いしています。食事中も会話しながら楽しんでおりましたが、現在は控えております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー調整が必要な方には、盛り付けの工夫をしています。また、一人一人の嚥下や咀嚼状態を把握しそれに合わせた食事形態を工夫し提供しています。水分量の確保が難しい方には、お好みの味のゼリーを手作り召し上がって頂けるよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた歯ブラシ等を使用し毎食後口腔ケアを行っております。口腔内の異常が生じた際には、歯科医へ連絡し連携を取っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、必要に応じてお声掛けや誘導を行い、排泄の失敗が軽減出来る様努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況に合わせて、医師処方のもと、下剤を使用しております。また、自然排便を促すため飲食物の工夫や体調に合わせた体操なども行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や夜間の睡眠状況によって、休息のお声掛けを行っております。夜間、安眠できる様その方に合わせた活動の支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬が処方される度、お薬情報を、個別の受診ファイルの保管し、その後の状態の変化も含め申し送り時などに情報共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、得意とされている事や、現在出来ている事を継続して行えるよう支援し、入居者様の自信に繋げ、生活に張り合いや達成感、生きがいを持てるよう取り組んでおります。		

グループホーム ハートの家 伍番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿いながら、散歩や買い物、外食、スーパー銭湯などに出掛けられるよう支援しております。ご家族様と外出や外泊を楽しんで頂く機会を設けております。2020年はコロナウイルス感染予防の為、外出は控えており、人通りの少ない時間帯で散歩を楽しんで頂く程度に留まっています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が希望された場合、ご家族様と相談し少額を自己管理されている方もおります。近所へ買い物に行かれご自分で好きな商品を選んで支払いをして頂いております。2020年は、買い物は控えている為、代行で行っております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望された際には、お電話が出来るよう支援しています。ご自身で手紙や年賀はがきを書かれ、来訪時にお渡ししたり、ポストへ投函しております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の管理をしております。不快な音や臭いにも気を配り心地よく過ごして頂けるよう取り組んでおります。また、季節を感じて頂けるよう職員と一緒に装飾品作り、飾り付け、匂いの物をおやつとしても提供しております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員のお顔が見渡せる食卓テーブルの他、ソファや椅子を随所に設置し思い思いに会話を楽しんだり、お独りでくつろげる空間作りを行っております。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際には、使い慣れた物や思い出の物や写真などを持って来て頂けるよう提案し、新しい環境でも安心して居心地よく過ごせるよう支援しております。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し歩行や掴まり立ちを安全に行えるよう仁しています。居室には、目につきやすい場所に表札、トイレや浴室にも表示し自立した生活送れるよう工夫しております。			

目標達成計画

事業所名 グループホームハートの家伍番館

作成日: 令和 2年 12月 8日

市町村受理日: 令和 2年 12月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震マニュアルに沿った入居者様毎に各ケアの場面での対応を話し合い、記録にして見直す。	地震発生時における、入居者様ごとのケア対応マニュアルを作成し、訓練を通して職員全員が対応出来る様取り組む。	防火管理者が中心となり、全職員と話し合いの場を設け、マニュアルの作成。地震避難訓練時に各ケア毎の訓練を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。